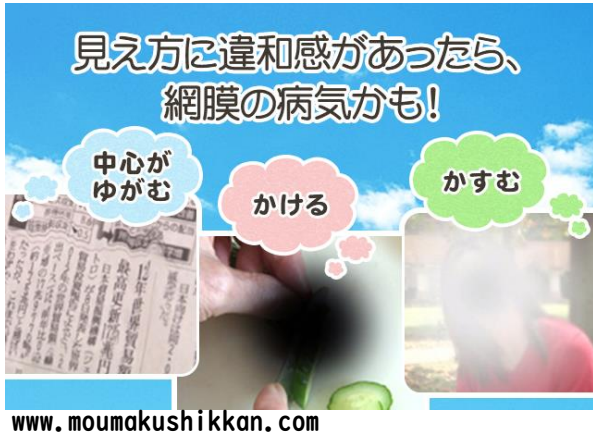


『網膜症』をご存じですか？



「こんな症状はありませんか？」
～自己診断チェック～

- まっすぐの線が歪んで見える
- 中心が見えない
- 真ん中が欠けて見える
- ぼやけて見づらい
- 片目がみづらい



1つでも当てはまる場合は目の病気を患っている可能性があります。

早めに眼科を受診しましょう。

糖尿病網膜症は、糖尿病の合併症として起きる目の病気です。緑内障とともに成人してからの失明の大きな原因疾患となっています。

高血糖が続くと網膜の細い血管は損傷を受け、徐々に血管がつまったり変形したりを繰り返し、最終的に出血を起こし、視力が低下します。

糖尿病発症後、血糖コントロールが悪いと数年～10年で糖尿病網膜症を発症

▶初期症状はほとんどなし・・・早期発見で治療可能

▶網膜症がかなり進行すると自覚症状が出る場合がある・・・元の状態に戻すのは困難

「飛蚊症」 視野の中に煙の煤のようなもの
蚊のような小さな虫が飛んでいる

「眼底出血」 視野に黒いカーテンがかかったように感じる

「視力低下」 急激な視力低下・・・網膜症が進行すると
網膜剥離を起こす場合があります、同様に視力低下をきたす



糖尿病と診断された時点から、最低でも年1回以上の眼科での定期検診は必要不可欠！
眼科治療の目標は、

- ① 早期は、現状を確認と良い状態を維持する
- ② 中期は、レーザーをあて悪化を止めること
- ③ 後期は、再燃を防ぐことです。

眼科治療後も引き続き、血糖コントロールをきちんと行い、定期的に検診を受けましょう。
(血糖コントロールがうまくいかないと、再燃する危険性が高いからです。)

また、糖尿病網膜症を進行させる要因として、糖尿病だけでなく、脂質異常症や高血圧の関与も指摘されています。これらの生活習慣病全般について、予防に努めることが必要です。

